

国土交通省関東地方整備局は、「見積もり提出方式」を軌道に乗せるため、建設関係団体に向けて説明会を実施するなど、周知に取り組んでいる。関東地整の入札に占める不調不落の割合は、10月末時点で3割に上

## 関東地整

# 見積もり提出方式



## 業界への周知で説明会

## 応札者の増加に期待大

「見積もり提出方式」では、10月の試行開始後、河川の設備関係を中心に約10件の案件の申し込みを締め切ったが、半数近くが応募者不足などで入札を取りやめている。業者への周知不足も一因と

見られ、関東地整は10日に建設関係団体関係者を集めて新方式の説明会を実施。きょう14日には、さいたま新都心合同庁舎2号館で、土木機械設備業者に向けて同様の説明会を行う。関東地整は「求

められれば出向いて話す」としており、今後さまざまな機会を通じて周知の徹底を図る。12月に入ってから業

界のすそ野が広く、勉強会を開くなど業者の関心も高い「維持修繕」「舗装」など、都心の道路関係の工事で発注が始まった。担当の東京国道事務所は、積算価格や現場状況の

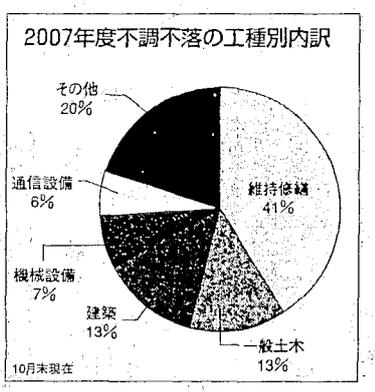
14件が不調不落となっている。2006年度の20%（全2469件のうち496件）に比べてもペースは加速し、関東地

整では危機感を強めている。本年度の不調不落の工種別内訳を見ると、維持修繕が41%の165件で

トップ。次いで▽一般土木13%（55件）▽建築13%（53件）▽機械設備7%（31件）▽通信設備6%（26件）と続く。また、これら不調不落は比較的小規模な工事や、地元業者を対象とした改良・復旧工事で発生している。

「見積もり提出方式」では、10月の試行開始後、河川の設備関係を中心に約10件の案件の申し込みを締め切ったが、半数近くが応募者不足などで入札を取りやめている。業者への周知不足も一因と見られ、関東地整は10日に建設関係団体関係者を集めて新方式の説明会を実施。きょう14日には、さいたま新都心合同庁舎2号館で、土木機械設備業者に向けて同様の説明会を行う。関東地整は「求

められれば出向いて話す」としており、今後さまざまな機会を通じて周知の徹底を図る。12月に入ってから業界のすそ野が広く、勉強会を開くなど業者の関心も高い「維持修繕」「舗装」など、都心の道路関係の工事で発注が始まった。担当の東京国道事務所は、積算価格や現場状況の



## 「見積もり提出方式」できよう公告

国土交通省関東地方整備局は、近年、入札の不調不落が続いていた橋脚耐震補強工事を「見積もり提出方式」で発注する。きょう14日から「国道6号四ツ木橋」「国道6号言問橋」「国道14号新小松川大橋」「国道14号両国橋」「国道17号志村橋」の5件を公告。また、同日に「国道14号新小松川・小松川小橋」についても関東地方整備局が「見積もり提出方式」で発注する（公告の概要は入札欄に掲載）。

都内の橋脚補強工事では、昨年度から入札参加者の減少傾向が顕著で、応募者ゼロの案件も頻発している。関東地整と東京国道事務所は、工事が河川の流水状況や航路の確保など、厳しい制約を伴うにもかかわらず、標準積算では実勢価格を十分に反映できないと判断。「見積もり提出方式」の適用を決めた。

申請書、見積書の提出期限は関東地整の1件が2008年1月15日、東京国道事務所の5件が1月18日まで。

## 東京国道の橋脚耐震補強